

SYLLABUS (地理総合)

単位数	2	履修学年	1 年	履修学科	普通科・工業科
使用教科書		高等学校 新地理総合（帝国書院）			
学習の目標	現代世界の諸問題を、地理的・空間的な広がりの中で考察し、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			授業の概要	生活に関連させながら、地理的な見方・考え方と技能を身に付けさせる授業を目指す。視聴覚教材を活用しながら、基礎的・基本的知識の理解と定着を図る。
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
1 学期	第 1 部 地図でとらえる現代社会 第 1 章 地図と地理情報システム 第 2 章 結びつきを強める現代社会 (キーワード 時差 領域 交通 貿易 グローバル化 地域性)			○日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ○現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。	
2 学期	第 2 部 国際理解と国際協力 第 1 章 生活文化の多様性と国際理解 (キーワード 大地形 小地形 気候 産業 言語 宗教 民族 文化)			○世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ○世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解し、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。	
3 学期	第 2 章 地球的課題と国際協力 第 3 部 持続可能な地域づくりと私たち 第 1 章 自然環境と防災 第 2 章 生活圏の調査と地域の展望 (キーワード 人口 食料 都市 エネルギー 環境問題 減災 自然災害)			○我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ○生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。	
評価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能		地理に関する基礎的・基本的知識を身に付け、地理的認識力、作図力を身に付ける。		・定期考査
	思考・判断・表現		現代の世界を地理的な見方や考え方から多面的に捉え、世界の諸課題を公正に判断し、考察・表現する。		・授業中の諸活動や態度
	主体的に学習に取り組む態度		地理総合の学習内容に関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、課題を主体的に追究し解決使用と取り組むことができる。		課題 発表 ノート ロイロノート
学習アドバイス	○授業の取組 地理総合では、現代世界にある人類共通の地球的課題を学びます。単に用語を暗記するだけでなく、地理的・空間的な広がりの中で考察したり、読図や作図といった技能を身に付けたり、防災意識を高めることや、自ら資料や情報を収集したりできるようになることが大切です。 ○家庭学習（予習・復習） 予習・復習は必ずしましょう。予習をすることで、その日の授業内容が理解しやすくなり、考える時間や、作業をする時間を持つことができます。また、復習をすることで、その日の学習内容がより身に付き、その後の授業でも役に立ちます。				

SYLLABUS (歴史総合)

単位数	2	履修学年	1年	履修学科	普通科
使用教科書		高等学校 歴史総合（第一学習社）			
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		授業の概要	各章および各単元で設定した問いを出発点に、18世紀（1700年代）以降の歴史について、世界の歴史と日本の歴史とを結び付けて見ていく新しい科目です。資料を活用しながら歴史の学び方を習得することが目的で、ただ知識を暗記するものではありません。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1学期	第1部 歴史の扉 第2部 近現代の世界と日本 ・第1章 近代化と私たち		・この科目の導入として、中学校社会科歴史的分野の大項目A「歴史との対話」を踏まえ、高校の歴史学習への動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身に付ける。 ・産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解できるようにする。		
2学期	第2部 近代化の世界と日本 ・第1章 近代化と私たち ・第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・第3章 グローバル化と私たち		・政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できるようにする。 ・科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活と社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わるグローバル化の歴史を理解できるようにするとともに、考察、構想して探究し現代的な諸課題を理解できるようにする。		
3学期	・第3章 グローバル化と私たち		・これまでの学習を踏まえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒が自ら主題を設定して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、現代的な諸課題を理解する。		
評価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能	・世界とそこの中の日本を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解する。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける		・定期考査 ・授業プリント ・ミニレポート ・小テスト	
	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。			
学習アドバイス	○授業の取組 教科書及び資料集を用いて、電子黒板を使用して理解を進めていきます。評価項目にしたがって観点別評価を行います。教科書本文や資料を読み解きながら理解を深めていきます。この取り組む姿勢が、評価の対象にもなります。 ○家庭学習（予習・復習） 基本的に授業で理解を図りますので教科書を読む程度の予習・復習で構いません。欠席や忘れ物をせず、真面目に授業に取り組んでください。				

SYLLABUS (歴史総合)

単位数	2	履修学年	3 年	履修学科	工業科
使用教科書		高等学校 歴史総合（第一学習社）			
学習の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		授業の概要	各章および各単元で設定した問いを出発点に、18 世紀（1700 年代）以降の歴史について、世界の歴史と日本の歴史とを結び付けて見ていく新しい科目です。資料を活用しながら歴史の学び方を習得することが目的で、ただ知識を暗記するものではありません。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	第 1 部 歴史の扉 第 2 部 近現代の世界と日本 ・第 1 章 近代化と私たち		・この科目の導入として、中学校社会科歴史的分野の大項目 A「歴史との対話」を踏まえ、高校の歴史学習への動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身に付ける ・産業社会と国民国家の形成を背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解できるようにする		
2 学期	第 2 部 近代化の世界と日本 ・第 1 章 近代化と私たち ・第 2 章 国際秩序の変化や大衆化と私たち ・第 3 章 グローバル化と私たち		・政治、外交、経済、思想や文化などの様々な面で国際的な結び付きが強まり、国家間の関係性が変化したことや個人や集団の社会参加が拡大したことを背景として、人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて考察し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解できるようにする。 ・科学技術の革新を背景に人・商品・資本・情報が国境を越えて一層流動するようになり、人々の生活と社会の在り方が変化したことを扱い、世界とそこの中における日本を広く相互的な視野から捉えて考察し現代的な諸課題の形成に関わるグローバル化の歴史を理解できるようにするとともに、考察、構想して探究し現代的な諸課題を理解できるようにする。		
3 学期	・第 3 章 グローバル化と私たち		・これまでの学習を踏まえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、生徒が自ら主題を設定して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、現代的な諸課題を理解する。		
評価	観 点	評価の観点の趣旨		評価項目	
	知識・技能	・世界とそこの中の日本を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解する。 ・諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける		・定期考查 ・小テスト ・ノート ・課題	
	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。			
学習アドバイス	○授業の取組 近現代の世界と日本の歴史を結びつけながら学習していきます。単に用語を暗記するだけでなく、「繋がり」を意識しながら、歴史的事象を理解し、資料などを読み解く技能を身に付けることが大切です。 ○家庭学習（予習・復習） 予習・復習は必ずしましょう。予習をすることで、その日の授業内容が理解しやすくなり、考える時間や、作業をする時間を持つことができます。また、復習をすることで、その日の学習内容がより身に付き、その後の授業でも役に立ちます。				

SYLLABUS (地理探究)

単位数	2	履修学年	2 年	履修学科	普通科Ⅱ型
使用教科書		新詳 地理探究 (帝国書院)			
学習の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質・能力を育成させる。		授業の概要	課題を追及したり解決したりする活動を通して地理的な見方・考え方を働かすことができる授業を目指す。ICT 機器を用いながら、資料の活用能力を身に付けさせる。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	第 1 部 現代世界の系統地理的考察 第 1 章 自然環境 キーワード 地形 気候 日本の自然環境 地球環境問題		○地形に関わる諸事象の規則性、傾向性や、人間による利用などについて理解する。 ○地形の分布や成因などに注目して、「平野の地形」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○気候と生態系に関わる諸事象の規則性、傾向性や気候の地域性などについて理解する。大気大循環のしくみや影響などに注目して、「気候の地域性」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。		
2 学期	第 2 章 資源と産業 キーワード 農林水産業 食料問題 工業 エネルギー・鉱産資源 第 3 次産業		○資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ○資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して、「エネルギー資源の課題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。		
3 学期	第 3 章 交通・通信と観光、貿易 第 4 章 人口、村落・都市 キーワード 情報通信 観光産業 経済圏 人口問題 都市・居住問題		○人口に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。 ○集落の機能や形態などに注目して、「世界の居住問題」などの主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する。		
評 価	観 点	評価の観点の趣旨		評価項目	
	知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解することができる。		・定期考査 ・小テスト ・授業中の諸活動や態度 課題 発表 ノート	
	思考・判断・表現	地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。			
	主体的に学習に取り組む態度	地理探究の学習内容に関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、課題を主体的に追求し解決しようと取り組むことができる。			
学習アドバイス	○授業の取組 地理探究では、豊富な地図や資料を活用しながら地理的な課題を追及します。用語を暗記するのではなく、常に新しい課題を見つけ、主体的に解決する姿勢を大切にしましょう。 ○家庭学習 (予習・復習) 予習・復習は必ずしましょう。予習をすることで、その日の授業内容が理解しやすくなり、考える時間や、作業をする時間を持つことができます。また、復習をすることで、その日の学習内容がより身に付き、その後の授業でも役に立ちます。				

SYLLABUS (地理探究)

単位数	2	履修学年	3 年	履修学科	普通科Ⅱ型
使用教科書		新詳 地理探究 (帝国書院)			
学習の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質・能力を育成させる。			授業の概要	課題を追及したり解決したりする活動を通して地理的な見方・考え方を働かすことができる授業を目指す。ICT 機器を用いながら、資料の活用能力を身に付けさせる。
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
1 学期	第 1 部 現代世界の系統地理的考察 第 5 章 生活文化、民族・宗教 キーワード 衣食住 民族・宗教 領土問題			○主題図や写真を用いて、文化についての定義の理解をふまえ、世界諸地域における文化の形成過程と変容過程について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○民族紛争や難民問題、領土問題の解決へ向けた取り組みと課題について、具体的事例をもとに考察する。	
2 学期	第 2 部 現代世界の地誌的考察 第 1 章 現代世界の地域区分 第 2 章 現代世界の諸地域 キーワード 中国 韓国 ASEAN 諸国 インド アフリカ EU 諸国 アメリカ合衆国			○さまざまな指標によって、地域を区分する方法について考察し、表現する。 ○地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。	
3 学期	第 3 部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第 1 章 持続可能な国土像の研究 キーワード 国土の在り方 地理的な課題			○我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する活動を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。	
評 価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能		地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解することができる。		・定期考査 ・小テスト ・授業中の諸活動や態度 課題発表 ノート
	思考・判断・表現		地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。		
	主体的に学習に取り組む態度		地理探究の学習内容に関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、課題を主体的に追求し解決しようと取り組むことができる。		
学習アドバイス	○授業の取組 地理探究では、豊富な地図や資料を活用しながら地理的な課題を追及します。用語を暗記するのではなく、常に新しい課題を見つけ、主体的に解決する姿勢を大切にしましょう。 ○家庭学習 (予習・復習) 予習・復習は必ずしましょう。予習をすることで、その日の授業内容が理解しやすくなり、考える時間や、作業をする時間を持つことができます。また、復習をすることで、その日の学習内容がより身に付き、その後の授業でも役に立ちます。				

SYLLABUS (日本史探究)

単位数	2	履修学年	2 年	履修学科	普通科Ⅱ型（文系）
使用教科書		高校日本史（山川出版社）			
学習の目標	日本の歴史・文化を理解することから、現在の日本や今後の日本の在り方を、世界との関連のなかで考えさせる。		授業の概要	資料や図版を効果的に利用し、分かりやすい授業展開を目指す。文化面や社会面にも時間を取り、日本の歴史に関心を持たせる。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	1 章 日本文化のあけぼの 2 章 古墳とヤマト政権 3 章 律令国家の形成 4 章 貴族政治の展開 キーワード 日本文化のはじまり 農耕の開始 ヤマト政権 飛鳥の朝廷 律令国家の成立 平城京 律令国家の繁栄 律令国家の変質 摂関政治 国風文化 荘園の発達と武士の台頭		○原始・古代から律令国家成立までの歴史を理解し、統一国家としての歩みに関心を持つ。 ・日本文化の始まりと、その後の特質を学ぶ。 ・小国の成立と、統一国家成立までの過程を理解する。 ・日本文化の発展と、特質を考える。 ・周辺国家との関わりにも関心を持つ。 ○律令国家の発展と変質を、貴族社会や、それを支えた民衆の生活、さらに地方で台頭して来た武士との関わりからも考える。 ・律令国家の特質を理解する。 ・貴族社会や文化の特質を考える。 ・民衆や武士の生活にも関心を持つ。		
2 学期	5 章 院政と武士の進出 6 章 武家政権の成立 7 章 武家社会の成長 キーワード 院政と平氏 鎌倉幕府 室町幕府 武家文化 惣村と一揆 戦国時代		○貴族社会と違った武士社会の特質を、文化からも考え、朝鮮・中国とのかかわりも理解する。 ○室町幕府の成立と戦国の動乱について文化を交えて考え、理解する。 ・武家社会成立の意義を考え、その特質を理解する。 ・武家政治の展開を理解し、近隣諸国との関係にも関心を持つ。 ・武家文化の特質を理解する。 ・織豊政権と文化の特色を考える。		
3 学期	8 章 近世の幕開け 9 章 幕藩体制の成立と展開		○幕藩体制の成立を諸外国との交流・文化を交えて考え、理解する。 ・体制の特色と、時代の流れ、必然性を理解する。 ・経済の発展と問題点を考え、文化の特色を理解する。		
評価	観 点	評価の観点の趣旨		評価項目	
	知識・技能	日本の歴史に関する知識を深め、国際社会との関わりを理解する。		・定期考査 ・授業中の諸活動や態度	
	思考・判断・表現	日本の歴史の知識を基に、今後の在り方を考察し、国際社会との関係を公正に判断し表現できる。		ノート	
学習アドバイス	主体的に学習に取り組む態度	日本の歴史に関心をもち、自ら課題を設定しその解決に意欲的に取り組みことができる。		課題 発表・レポート	
	○授業の取組 日本史探究では、基本的な歴史の流れを学習しながらも、受験への対策も取り入れ、資料の読み取りや考察も行います。学習は単なる暗記ではありません。常に考えながら、意欲を持って授業に臨むことが大切です。 ○家庭学習（予習・復習） 予習・復習は必ずしましょう。予習をすることで、その日の授業内容が理解しやすくなり、考える時間や作業をする時間を持つことができます。また、復習することで、その日の内容がより身に付き、その後の授業でも役に立ちます。				

SYLLABUS (日本史探究)

単位数	3	履修学年	3 年	履修学科	普通科 I 型
使用教科書		高校日本史（山川出版社）			
学習の目標	日本の歴史・文化を理解することから、現在の日本や今後の日本の在り方を、世界との関連のなかで考えさせる。		授業の概要	資料や図版を効果的に利用し、分かりやすい授業展開を目指す。文化面や社会面にも時間を取り、日本の歴史に関心を持たせる。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	1 章 日本文化のあけぼの 2 章 古墳とヤマト政権 3 章 律令国家の形成 4 章 貴族政治の展開 キーワード 日本文化のはじまり 農耕の開始 ヤマト政権 飛鳥の朝廷 律令国家の成立 平城京 律令国家の繁栄 律令国家の変質 摂関政治 国風文化 荘園の発達と武士の台頭		○原始・古代から律令国家成立までの歴史を理解し、統一国家としての歩みに関心を持つ。 ・日本文化の始まりと、その後の特質を学ぶ。 ・小国の成立と、統一国家成立までの過程を理解する。 ・日本文化の発展と、特質を考える。 ・周辺国家との関わりにも関心を持つ。 ○律令国家の発展と変質を、貴族社会や、それを支えた民衆の生活、さらに地方で台頭して来た武士との関わりからも考える。 ・律令国家の特質を理解する。 ・貴族社会や文化の特質を考える。 ・民衆や武士の生活にも関心を持つ。		
2 学期	5 章 院政と武士の進出 6 章 武家政権の成立 7 章 武家社会の成長 キーワード 院政と平氏 鎌倉幕府 室町幕府 武家文化 惣村と一揆 戦国時代		○貴族社会と違った武士社会の特質を、文化からも考え、朝鮮・中国との関わりも理解する。 ○室町幕府の成立と戦国の動乱について文化を交えて考え、理解する。 ・武家社会成立の意義を考え、その特質を理解する。 ・武家政治の展開を理解し、近隣諸国との関係にも関心を持つ。 ・武家文化の特質を理解する。 ・織豊政権と文化の特色を考える。		
3 学期	8 章 近世の幕開け 9 章 幕藩体制の成立と展開		○幕藩体制の成立を諸外国との交流・文化を交えて考え、理解する。 ・体制の特色と、時代の流れ、必然性を理解する。 ・経済の発展と問題点を考え、文化の特色を理解する。		
評価	観 点	評価の観点の趣旨			評価項目
	知識・技能	日本の歴史に関する知識を深め、国際社会との関わりを理解する。			・定期考査 ・授業中の諸活動や態度 ノート 課題 発表・レポート
	思考・判断・表現	日本の歴史の知識を基に、今後の在り方を考察し、国際社会との関係を公正に判断し表現できる。			
主体的に学習に取り組む態度	日本の歴史に関心をもち、自ら課題を設定しその解決に意欲的に取り組みことができる。				
学習アドバイス	○授業の取組 日本史探究では、基本的な歴史の流れを学習しながらも、受験への対策も取り入れ、資料の読み取りや考察も行います。学習は単なる暗記ではありません。常に考えながら、意欲を持って授業に臨むことが大切です。 ○家庭学習（予習・復習） 予習・復習は必ずしましょう。予習をすることで、その日の授業内容が理解しやすくなり、考える時間や作業をする時間を持つことができます。また、復習することで、その日の内容がより身に付き、その後の授業でも役に立ちます。				

SYLLABUS (日本史探究)

単位数	2	履修学年	3 年	履修学科	普通科Ⅱ型（文系）
使用教科書		高校日本史（山川出版社）			
学習の目標	日本の歴史・文化を理解することから、現在の日本や今後の日本の在り方を、世界との関連のなかで考えさせる。			授業の概要	資料や図版を効果的に利用し、分かりやすい授業展開を目指す。文化面や社会面にも時間を取り、日本の歴史に関心を持たせる。
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
1 学期	9 章 幕藩体制の成立と展開 10 章 幕藩体制の動揺 11 章 近世から近代へ 12 章 近代国家の成立 キーワード 幕政の安定 経済の発展 元禄文化 江戸幕府の衰退 化政文化 開国とその影響 幕府の滅亡と新政府の発足 明治維新 立憲国家の成立			○資料を用いて、18 世紀中後期の政治・社会・文化について理解する。 ○時代を通観する問い、仮説をふまえて、近世の特色および近代へのつながりについて多面的・多角的に考察して表現するとともに、「近世の日本と世界」の学習について振り返り、次の学習へのつながりを見いだす。 ○近世の幕末期から現代までを扱い、「歴史総合」の学習をふまえ、世界の情勢の変化とその中における日本の相互の関係を理解する。	
2 学期	13 章 近代国家の展開と国際関係 14 章 近代の産業と生活 15 章 恐慌と第二次世界大戦 16 章 現代の世界と日本 キーワード 大陸政策の展開 第一次世界大戦 ワシントン体制 近代産業の発展 第二次世界大戦 占領下の改革			○世界のなかの近現代日本に関する資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から近代の特色についての仮説を表現することを通じて、次章に向けて、見通しをもった学習を展開できるようにする。 ○時代を通観する問い、仮説をふまえて、近現代の特色および、現代の日本の課題について多面的・多角的に考察して表現するとともに、「近現代の地域・日本と世界」の学習について振り返り、次の学習へのつながりを見いだす。	
3 学期	現代日本の課題の探究			○「世界のなかの日本」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	
評価	観 点	評価の観点の趣旨			評価項目
	知識・技能	日本の歴史に関する知識を深め、国際社会との関わりを理解する。			・定期考査 ・授業中の諸活動や態度 ノート 課題 発表・レポート
	思考・判断・表現	日本の歴史の知識を基に、今後の在り方を考察し、国際社会との関係を公正に判断し表現できる。			
主体的に学習に取り組む態度	日本の歴史に関心をもち、自ら課題を設定しその解決に意欲的に取り組みことができる。				
学習アドバイス	○授業の取組 日本史探究では、基本的な歴史の流れを学習しながらも、受験への対策も取り入れ、資料の読み取りや考察も行います。学習は単なる暗記ではありません。常に考えながら、意欲を持って授業に臨むことが大切です。 ○家庭学習（予習・復習） 予習・復習は必ずしましょう。予習をすることで、その日の授業内容が理解しやすくなり、考える時間や作業をする時間を持つことができます。また、復習することで、その日の内容がより身に付き、その後の授業でも役に立ちます。				

SYLLABUS (公 共)

単位数	3	履修学年	2 年	履修学科	普通科
使用教科書		新版公共（数研出版）			
学習の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		授業の概要	現代社会の諸課題や公共的な空間における基本的原理などの学習を通して、倫理・政治・経済・国際分野における知識を理解する。諸資料から調べたり、まとめたり、発表したり、主体的に学ぶ態度を身に付ける。授業や定期考査では、最新の時事問題も取り入れ、理解の深化を図り、幅広い知識を身に付けることを実践する。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	第 1 章 公共的な空間をつくる私たち ○ 青年期 ○ 世界の宗教 ○ 日本の思想 ○ 日本の文化 第 2 章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 ○ 西洋思想 ○ 現代社会の諸課題		自己理解や伝統・文化などの学習を通して、公共的な空間と人間のかかわりを理解する。 ＊さまざまな考えがあることを理解する。 先人の思想を手掛かりに現代社会における諸課題を主体的に解決しようとする。 ＊諸課題解決に向けて考えを模索する。		
2 学期	第 3 章 公共的な空間における基本原理 ○ 民主政治の基本原理 ○ 人権保障 ○ 日本国憲法 第 4 章 現代の民主政治と政治参加の意義 ○ 国会・内閣・裁判所 ○ 選挙・政党 第 5 章 現代の経済社会と経済活動の在り方 ○ 経済主体 ○ 企業 ○ 市場のしくみ ○ 財政 ○ 金融 ○ 消費者問題 ○ 労働問題 ○ 社会保障		先人の知恵を踏まえ、公共的な空間における基本原理を学ぶ。 ＊民主主義とは何かを考える。 法体系を理解するとともに、民主社会における合意形成の在り方を考察する。 ＊主権者として何ができるかを考える。 公正かつ自由な経済活動の意義を学び、少子高齢社会などの現代経済の諸課題解決に向けて、主体的に取り組む。 ＊契約とはどのようなことか理解する。 ＊少子化にどう対応するべきか考える。		
3 学期	第 6 章 国際社会の動向と日本の役割 ○ 国際法 ○ 国際連合 ○ 国際紛争 ○ 安全保障 ○ 貿易 ○ 為替相場 ○ 南北問題		国際社会はどのように成り立っているか理解し、全ての人が幸福に暮らすために私たちがどうあるべきかを考察する。 ＊SDGs の実現に必要なことを考える。		
評 価	観 点	評価の観点の趣旨			評価項目
	知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。			・ 出席状況 ・ 授業態度 ・ 長期休業中の課題及びレポート ・ ロイロノート提出 ・ 定期考査
	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。			
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			
学習アドバイス	○授業の取組 教科書及び資料集を用いて、電子黒板を使用して理解を進めていきます。評価項目にしたがって観点別評価を行います。この授業は、正解のない問題にチャレンジします。一人一人が、自ら考え、答えを導き出してください。この取り組む姿勢が、評価の対象にもなります。 ○家庭学習（予習・復習） 基本的に授業で理解を図りますので教科書を読む程度の予習・復習で構いません。欠席や忘れ物をせず、真面目に授業に取り組んでください。				

SYLLABUS (公 共)

単位数	2	履修学年	2 年	履修学科	工業科
使用教科書		新版公共（数研出版）			
学習の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		授業の概要	現代社会の諸課題や公共的な空間における基本的原理などの学習を通して、倫理・政治・経済・国際分野における知識を理解する。諸資料から調べたり、まとめたり、発表したり、主体的に学ぶ態度を身に付ける。授業や定期考査では、最新の時事問題も取り入れ、理解の深化を図り、幅広い知識を身に付けることを実践する。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	第 1 章 公共的な空間をつくる私たち ○青年期 ○世界の宗教 ○日本の思想 ○日本の文化 第 2 章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 ○西洋思想 ○現代社会の諸課題		自己理解や伝統・文化などの学習を通して、公共的な空間と人間のかかわりを理解する。 ＊さまざまな考えがあることを理解する。 先人の思想を手掛かりに現代社会における諸課題を主体的に解決しようとする。 ＊諸課題解決に向けて考えを模索する。		
2 学期	第 3 章 公共的な空間における基本原理 ○民主政治の基本原理 ○人権保障 ○日本国憲法 第 4 章 現代の民主政治と政治参加の意義 ○国会・内閣・裁判所 ○選挙・政党 第 5 章 現代の経済社会と経済活動の在り方 ○経済主体 ○企業 ○市場のしくみ ○財政 ○金融 ○消費者問題 ○労働問題 ○社会保障		先人の知恵を踏まえ、公共的な空間における基本原理を学ぶ。 ＊民主主義とは何かを考える。 法体系を理解するとともに、民主社会における合意形成の在り方を考察する。 ＊主権者として何ができるかを考える。 公正かつ自由な経済活動の意義を学び、少子高齢社会などの現代経済の諸課題解決に向けて、主体的に取り組む。 ＊契約とはどのようなことか理解する。 ＊少子化にどう対応するべきか考える。		
3 学期	第 6 章 国際社会の動向と日本の役割 ○国際法 ○国際連合 ○国際紛争 ○安全保障 ○貿易 ○為替相場 ○南北問題		国際社会はどのように成り立っているか理解し、全ての人が幸福に暮らすために私たちがどうあるべきかを考察する。 ＊SDGs の実現に必要なことを考える。		
評 価	観 点	評価の観点の趣旨		評価項目	
	知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。		・出席状況 ・授業態度 ・長期休業中の課題及びレポート ・ロイロノート提出 ・定期考査	
	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。			
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。			
学習アドバイス	○授業の取組 教科書及び資料集を用いて、電子黒板を使用して理解を進めていきます。評価項目にしたがって観点別評価を行います。この授業は、正解のない問題にチャレンジします。一人一人が、自ら考え、答えを導き出してください。この取り組む姿勢が、評価の対象にもなります。 ○家庭学習（予習・復習） 基本的に授業で理解を図りますので教科書を読む程度の予習・復習で構いません。欠席や忘れ物をせず、真面目に授業に取り組んでください。				

SYLLABUS (政治・経済)

単位数	3	履修学年	3 年	履修学科	普通科Ⅱ型
使用教科書	高等学校 政治・経済（第一学習社）				
学習の目標	現代の政治・経済についての基本的な見方、考え方を身に付けさせるとともに、現代社会に存在するさまざまな課題に主体的に取り組むことのできる日本人としての自覚と資質を養う。		授業の概要	身近なニュースや問題に関連させながら、政治・経済についての基本的な見方、考え方を身に付けるとともに、さまざまな資料を活用し、読図や作図、発表などの表現力の向上を図る。	
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
1 学期	第 1 編現代日本の政治・経済の諸課題 第 1 章現代日本の政治・経済 （キーワード）【政治分野】 法の支配 民主政治 基本的人権 議会制民主主義 政治体制 国会 内閣 裁判所 地方自治 政党 選挙			○私たちの生活の中で政治が果たす役割を理解するとともに、現代政治の課題について考える。 ・民主政治の本質を理解し、日本国憲法の基本原理や政治機構の役割について考える。 ・主権者としての資質・能力を養うとともに、政治参加の在り方について考える。	
2 学期	（キーワード）【経済分野】 資本主義 社会主義 市場経済 国民所得 財政 金融 社会保障 農業 労働 社会保障 第 2 章 現代日本の諸課題の探究 （キーワード） 少子高齢化 多様な働き方 起業 防災 財政健全化 食の安全保障			○私たちの生活の中で経済活動が果たす役割を理解するとともに、現代経済の課題について考える。 ・資本主義経済の変容について理解させ、社会保障制度など政府の果たすべき役割について考える。 ・金融の動きを理解し、農業や労働など社会問題の解決に向けて考える。 ○政治や経済に関する基本的な理解を踏まえ、現代日本の諸課題を探究し、望ましい解決の在り方について考える。 ・少子高齢・人口減少社会において、防災や働き方、食の安全などの観点から解決策を考える。	
3 学期	第 2 編グローバル化する国際社会の諸課題 第 1 章現代の国際政治・経済 第 2 章国際社会の諸課題の探究 （キーワード） 国際紛争 安全保障 貿易 為替 国際連合 国際収支 国際貢献			○国際社会の政治や経済の変容を理解し、国際平和の実現に向けて、日本の役割を考える。 ・現在の国際社会で起きている政治的問題について、国連などを中心にその原因を考える。 ・貿易や為替を通じて国際経済の本質を理解し、南北問題などについて考える。	
評 価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能		現代社会の政治や経済に関する基礎的知識を身に付け、国際情勢及び我が国の歴史と関連付けながら理解する。		・出席状況 ・授業態度 ・長期休業中の課題及びレポート ・ノート提出 ・定期考査
	思考・判断・表現		現代の政治や経済の諸課題について、様々な角度から考察し、自らの意見を形成して表現することができる。		
	主体的に学習に取り組む態度		よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の政治や経済の諸課題を主体的に解決しようとしている。		
学習アドバイス	○授業の取組 「政治・経済」の授業は、「公共」で学習した知識を生かしつつ、現実の諸問題を考察しながら進んでいきます。単に出来事や人物名を暗記するだけではなく、様々な角度から幅広い見方ができるように探究問題に取り組むとともに、常に時事問題に興味・関心を持ちながら意欲を持って授業に臨むことが大切です。 教科書及び資料集を用いて、電子黒板を使用して理解を進めていきます。評価項目にしたがって観点別評価を行います。この授業は、正解のない問題にチャレンジします。一人一人が、自ら考え、答えを導き出してください。この取り組む姿勢が、評価の対象にもなります。 ○家庭学習（予習・復習） 授業では基本的にスライド及び電子黒板を使用します。ノートをしっかり記録するようにしてください。指示された範囲の予習・復習は必ずしましょう。予習をすることで、その日の授業内容が理解しやすくなるとともに、考える時間や作業をする時間を持つことができます。また、復習をすることでその日の内容がより身に付き、その後の授業でも役に立ちます。 基本的に授業で理解を図りますので教科書を読む程度の予習・復習で構いません。欠席や忘れ物をせず、真面目に授業に取り組んでください。				